

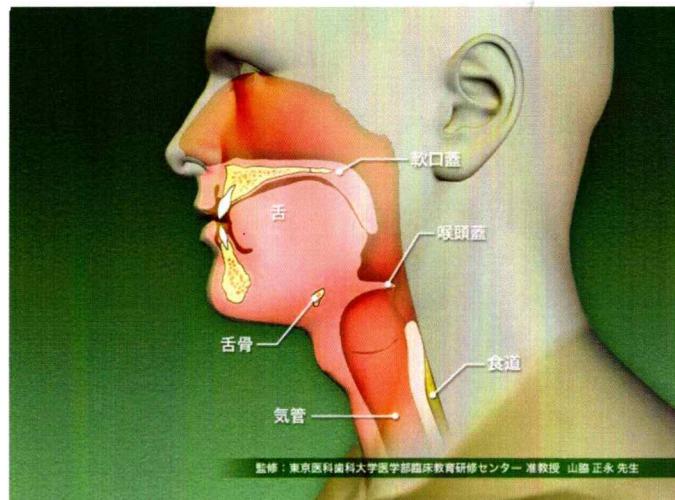
嚥下障害

白井病院
脳神経内科 奥村 一哉

嚥下とは

- ◆ 嚥下とは、食べ物を口の中で噛み(咀嚼し)、飲み込みやすい大きさに変えて口から喉、食道、胃へ送り込むこと
- ◆ 準備期、口腔期、咽頭期、食道期と分類されますが、ここでは、口から食道までの間の障害について考察します

嚥下運動



嚥下障害の原因

- ◆ 器質性障害によるもの
炎症や腫瘍により通過障害を來したもの
- ◆ 機能的障害によるもの
器官を動かす筋肉や神経に原因のあるもの
- ◆ 心理的原因によるもの
心因性の疾患によって嚥下が困難となるもの

→ 誤嚥性肺炎

パーキンソン病における嚥下障害

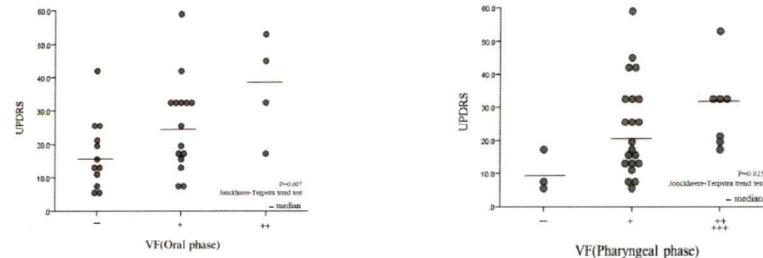
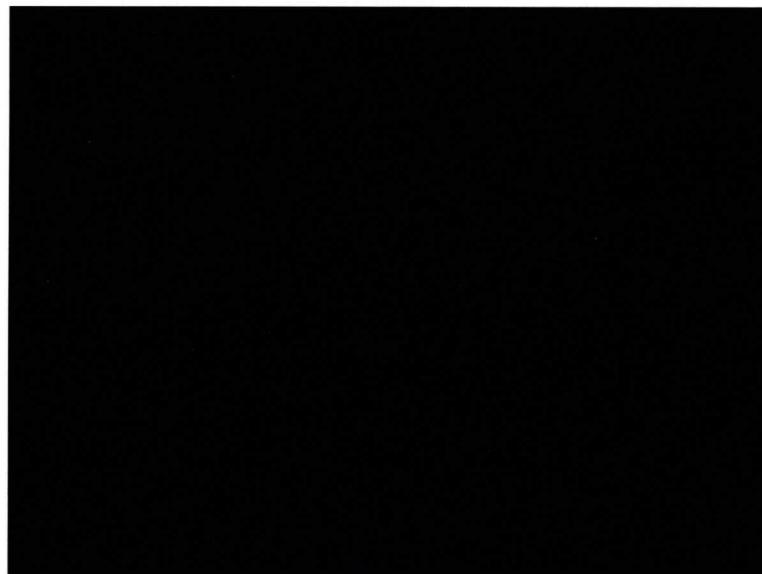


Table 2 Assessment of dysphagia in PD patients with VF.

VF	Preparatory phase	Oral phase	Pharyngeal phase	Esophageal phase
-	30 (96.8%)	12 (38.7%)	3 (9.7%)	17 (54.8%)
+	1 (3.2%)	15 (48.4%)	21 (67.7%)	14 (45.2%)
++		4 (12.9%)	6 (19.4%)	
+++			1 (3.2%)	

PD: Parkinson's Disease. VF: videofluoroscopic examination of swallowing.

日志乃布ら. 臨床神経 2016;56, 550-556



YouTubeより

パーキンソン病における嚥下障害

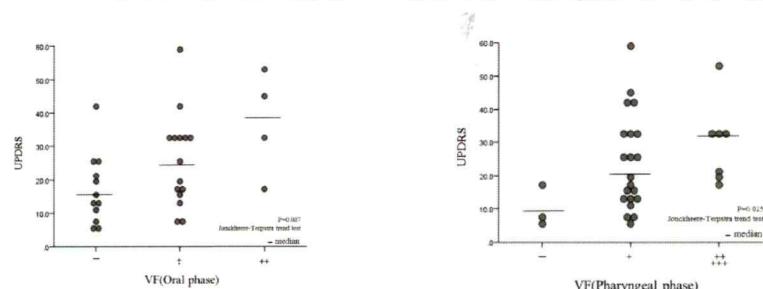


Table 2 Assessment of dysphagia in PD patients with VF.

VF	Preparatory phase	Oral phase	Pharyngeal phase	Esophageal phase
-	30 (96.8%)	12 (38.7%)	3 (9.7%)	17 (54.8%)
+	1 (3.2%)	15 (48.4%)	21 (67.7%)	14 (45.2%)
++		4 (12.9%)	6 (19.4%)	
+++			1 (3.2%)	

PD: Parkinson's Disease. VF: videofluoroscopic examination of swallowing.

日志乃布ら. 臨床神経 2016;56, 550-556

調理と食事の時の注意

- ◆ 一口で飲み込みやすい大きさに
- ◆ 喉を通り難い食材は避ける
- ◆ 噫むと水分が出てむせやすいもの、小さくて気管に吸い込みやすいものに注意
- ◆ 介護者は、一口の量を減らし、口の中に食べ物がなくなってから次を運ぶようにする
- ◆ 姿勢を正しく
- ◆ 口腔内を清潔に

注意したい食べ物



梅津珠子, ほか・香誰の立場から, 村田美穂編著, やさしいパーキンソン病の自己管理 改訂版, 医薬ジャーナル社, 東京, p97, 2012

食事時の姿勢について

補正前



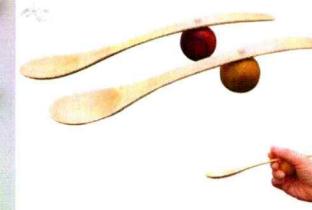
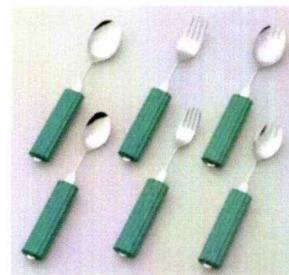
補正後



食事の際の自助具について

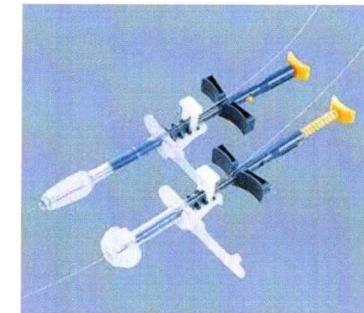
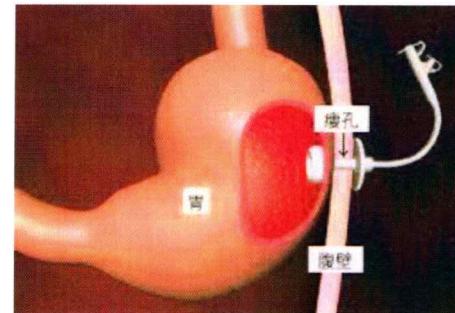


食 具



胃瘻について

胃瘻



胃瘻のメリット・デメリット

メリット

- ◆ 誤嚥性肺炎を予防
- ◆ 服を着れば目立たない
- ◆ 生活に制限がない
(入浴も可能)
- ◆ 口から食事を食べる事が一部可能
- ◆ 介護者の負担が少ない
- ◆ **薬の投与が可能**

デメリット

- ◆ 手術・胃カメラが必要
- ◆ 皮膚トラブルが起こり易い
- ◆ 定期的交換が必要
- ◆ 施設入所に一部制限あり
- ◆ 誤嚥性肺炎が全く起ららない訳ではない



嚥下体操

1. 舌の体操

2. あいうえお体操

3. パタカラ体操

次回

令和3年8月上旬

新しいパーキンソン病治療(仮)

来年以降の題材について何か
ご希望があればご連絡を

